

官立大阪中学校「教授要旨」に関する一考察

四 方 一 派

はじめに

官立大阪中学校の「教授要旨」はそのうち制定公布された各府県の「教授要旨」に大きな影響をあたえた。⁽¹⁾この教授要旨は各教科の教授の目的・要領・授業法の要略を記し、中学校における教育内容やその程度などを明確にし、今日における中等教育内容の定律化の基盤をなすにいった。 「教授要旨」成文化の時期はわが国の教育内容が「学制」期の欧米の近代的科学的な啓蒙主義知識主義から儒教にもとづく徳育主義へと政策的に大きく転換する時期にあたっており、それはまたその後のわが国の戦前教育の軌道をしくものであった。この意味において地域にゆだねた中学校教育から干渉主義に一転した政府の中学校政策の先導的役割を担った官立大阪中学校の教授要旨を考察することは当時の政府の中学校政策の意図および一般的な教科観・教育方法観を理解するうえに意味のあることと考える。本稿においては官立大阪中学校（以下大阪中学校と略す）が文部省に伺いでた「教授要旨」案とそれについてする文部省の「指令」を中心にして考察を試みようとするものである。

(1) 拙稿「中学校教則大綱準拠教則の『教授要旨』編成経緯に関する一考察」国士館大学文学部編『創設二十周年記念論集』（昭和六十一年十月）所収

大阪中学校教授要旨伺出案と文部省指令

明治十四年七月二十九日、中学校教則大綱が公布された。このうち八月十七日には別表のごとき学科課程表が頒布され、各教科の教授項目が明らかにされた。さらに同年十二月一日および翌十五年三月一日には教授要旨を提出すべき旨、文部省は各府県に達した。官立大阪中学校もこの趣旨にもとづいて十五年四月十五日、「大阪中学校規則第九条 教授要旨」として文部省に伺いでたが、文部省はこれにたいして七月十一日、「伺之趣別冊ノ通訂正施行可致事」とほぼ全面的に文章を改めてその施行を命じた。⁽²⁾それは後述するごとく本質的な相違は見られないが、若干の点で重要な修正もみられる。本教授要旨がわが国中学校教育の教育内容を規定するうえに大きな役割を担ったもの

学科課程表

地 理	三 角 法	幾 何	代 数	算 術	英 語	和 漢 文	修 身	科 学	
								毎 週 時 数	第 一 年
二 日 本 地 誌 論				五 小 分 加 減 乗 除 数	六 習 読 綴 字 書 附 取 方 字 取	七 作 ノ 日 本 文 漢 文 交 文 書 讀 文 文	二 善 嘉 行 言 二	上 同	前 期
万 日 本 地 誌				開 百 分 比 平 算 例	六 習 読 綴 字 書 附 取 方 字 取	七 作 ノ 日 本 文 漢 文 交 文 書 讀 文 文	二 善 嘉 行 言 二	上 同	後 期
二 万 日 本 地 誌			二 整 数 四 術	二 求 級 開 積 数 立	六 習 読 綴 字 書 附 取 方 字 取	六 作 ノ 日 本 文 漢 文 交 文 書 讀 文 文	二 善 嘉 行 言 二	上 同	前 期
二 地		二 平 面 幾 何	二 分 数 四 術		六 習 読 綴 字 書 附 取 方 字 取	六 作 ノ 日 本 文 漢 文 交 文 書 讀 文 文	二 善 嘉 行 言 二	上 同	後 期
文 二 地		二 平 面 幾 何	二 方 程 式		六 作 読 綴 字 書 附 取 方 字 取	六 作 ノ 日 本 文 漢 文 交 文 書 讀 文 文	二 善 嘉 行 言 二	上 同	前 期
文		三 平 面 幾 何	二 方 程 式		六 作 読 綴 字 書 附 取 方 字 取	六 作 ノ 日 本 文 漢 文 交 文 書 讀 文 文	二 善 嘉 行 言 二	上 同	後 期
		二 立 体 幾 何	二 級 錯 順 数 列		六 作 読 綴 字 書 附 取 方 字 取	六 作 ノ 日 本 文 漢 文 交 文 書 讀 文 文	二 善 嘉 行 言 二	上 同	前 期
		常 用 曲 線 幾 何			六 作 読 綴 字 書 附 取 方 字 取	六 作 ノ 日 本 文 漢 文 交 文 書 讀 文 文	二 善 嘉 行 言 二	上 同	後 期
	二 對 八 線 變 化 法				七 作 読 綴 字 書 附 取 方 字 取	七 作 ノ 日 本 文 漢 文 交 文 書 讀 文 文	二 善 嘉 行 言 二	上 同	前 期
	三 對 角 算 法				七 作 読 綴 字 書 附 取 方 字 取	七 作 ノ 日 本 文 漢 文 交 文 書 讀 文 文	二 善 嘉 行 言 二	上 同	後 期
					七 作 読 綴 字 書 附 取 方 字 取	七 作 ノ 日 本 文 漢 文 交 文 書 讀 文 文	三 善 嘉 行 言 三	上 同	前 期
					七 作 読 綴 字 書 附 取 方 字 取	七 作 ノ 日 本 文 漢 文 交 文 書 讀 文 文	三 善 嘉 行 言 三	上 同	後 期
一 〇	四	一 一	一 〇	二 二	七 六	七 八	二 六	比 時 授 各 較 間 業 科	

經 濟	化 学	物 理	金 石	植 物	動 物	生 理	歴 史
							二
							日
							本
							史
					二 等性、効用、性、發育、構造、法、論、分		二
					二 前級ノ統		日
							本
		二 大		二 用殊等性、効用、性、發育、構造、法、論、分			史
		意					二
		二 前級ノ統		二 前級ノ統			支
							那
二 配生總	二 大無機化学					二 養其諸呼化皮骸總 生器吸等膚、論、 用法并ノ血消、骨	二
財財論	二 前級ノ統					二 神感覺器及	万
租二貨幣 銀行附 税易							国
		二 重總	二 用性狀硬分金 產質其他、法、論				史
		学論	二 意及前 地質ノ大統				二
	二 非總	二 熱重					万
	金論	学学					国
	二 金非	二 視聽					史
	属属	学学					
	三	三					
	大有金 機化学 意属	氣及磁電 象氣氣学 大意学学					
四	一 一	一 三	四	五	四	四	一 六

科 学	第一 年	第二 年	第三 年	第四 年	第一 年	第二 年	各 科 授 業 時 間 比 較
	毎 週 数 時	前 期 上 同	後 期 上 同	前 期 上 同	後 期 上 同	後 期 上 同	
記 簿							四
本 邦 法 令						二 令 現 行 ノ 法	二
習 字	二 楷	書 二 楷	書 二 行	書 二 草	書		八
図 画	二 自 在 画 法	二 自 在 画 法	二 自 在 画 法	二 自 在 画 法	二 用 器 画 法	二 用 器 画 法	二 六
体 操							
通 計	二 八	八 元	八 元	一 〇 元	一 〇 元	一 〇 元	六 三 二 八

体操ハ適宜之ヲ課スヘシ

(鹿兒島県立図書館蔵「鹿兒島県公達明治拾四・四」
明治14・10・29 甲第二二二号 別表)

であり今後この期の中等教育史研究に資するところあるとおもはれるので、繁をいとわず大阪中学校の伺案と文部省指令の全文を対照併記することとする。

文部省指令の修正点

大阪中学校伺案と文部省指令とを主要な点について比較対照すると、いくつかの相違点にきづく。まず型式上の点からのべると、項目のたてかたは原則として初等中等学科・高等中学科の区別をするこ
となく、各学科目ごとに記述している点については同じであるが、

(2) 拙稿『中学校教則大綱』学科課程の成立に関する一考察―官立大阪
中学校の発足とのかかわりかたからみた― 国士館大学教育学会編『教
育学論叢』第三号(昭和六十年十二月)所収参照

府県別学科別「教授要旨」項目及び課程別修業年限

省府県名	教科目	修身	和漢文	英語	算術	代数	幾何	三角	地理	歴史	生物	動物	植物	金石	物理	化学	経済	記簿	本邦法令	習字	図画	唱歌	体操	修年 初等 中学 科	業限 高等 中学 科	備考
文部省		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
北海道																								4	2	
青森		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
岩手		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
宮城		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	農業科2
福島		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
秋田		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
山形		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
茨城		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3半	1半	
千葉		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3半	1半	
栃木		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3	2	
群馬		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
埼玉		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
東京		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
神奈川																								4	2	
新潟		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
富山		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	1	
石川		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	1	法学子科1 法理文科3
福井		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3	2	
山梨		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
長野		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
岐阜		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
静岡		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
愛知		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
三重		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
滋賀					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
京都		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	地理の次に地文す
兵庫		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
大阪		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
奈良					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
和歌山		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
鳥取		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
島根		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	文科理科
岡山		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
広島		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
山口		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
高知		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
徳島		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3	2	
香川																										
愛媛		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
福岡		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	甲種4 乙種3半1半
佐賀																										
長崎		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	1	
熊本																										
大分		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	2	
宮崎																										
鹿児島																										
沖縄																										

備考 〰 は当該教科目名を併記

大阪中学校教授要旨伺案

明治十五年四月十六日 文部省伺出

大阪中学校規則第九条授業要旨

第九条 各学科授業ノ要旨左ノ如シ

第一款 修身 道ハ須臾モ離ル可ラス之ヲ修ムル其方ヲ得サレバ人慾恣ニシテ天理滅ス是レ此学科ノ設ケアル所以也其之ヲ授クルヤ宜ク先後ノ序ナカル可ラス乃初等中学ニ於テハ先哲ノ嘉言善行ニヨリテ専ラ威儀容貌ノ事ヲニ係ル者ヲ授ケ次ニ兼テ内面理義ノ心術ニ係ル者ヲ説キ以孝弟忠信礼義廉耻慈祥ノ德行ヲ修セシメ高等中学ニ於テハ説ク處理義ノ較深遠ナル者ニ及ホシ以テ心ヲ正シ身ヲ修メ応事接物ノ大道ヲ知ラシム凡テ修身ノ学ハ懿徳ヲ涵養シ操行ヲ砥礪スルヲ旨トス故ニ之ヲ教フルハ徒ラニ多キヲ貪ランヨリ寧ロ少クシテ精通セシメ之ヲ言意ノ表ニ得テ之ヲ踐履ノ実ニ誠ニセシムルヲ務メサル可ラス且理義ハ専ラ儒教ニ基キテ之ヲ説キ敢テ他教ノ理論ヲ雜ユルヲナキヲ要ス

第二款 和漢文 和文ハ我国固有ノ語格ヲ具ヘ漢文ハ今日普通ノ文材ニ資スル者ニシテ共ニ文章ノ骨子タリ今其学習ヲ分チテ日本文法読書作文ノ三科トス

日本文法 文法ハ言語文章ノ規矩準繩タリ故ニ之ヲ授クルノ際近ク例ヲ引キ多ク証ヲ挙ケテ実用ニ適応セシムルヲ努ムヘシ其之ヲ教フルノ序ハ先四種ノ活用ヨリ変格一格形状言情態言ニ及ホシ次ニ且ル乎波ヲ教ヘ漸ク短文又ハ和歌ニヨリテ詞ノ自他ノ區別及措詞等ノ諸格ヲ知了セシムルヲ要ス

読書 読書ノ要ハ其読法ヲ正クシ其意義ヲ詳ニシ且以テ作文ノ資ニ供スルニアリ故ニ初等中学ニ於テハ先ツ文字ノ音訓及声音ノ抑揚句読ノ断続ヲ明ニシ字義語格及句意章旨ヲ解セシムヘキハ勿論書中熟字熟語及語格辞格ノ

大阪中学校教授要旨文部省指令

明治十五年七月十一日文部省指令

授業要旨

第九条 各学科授業ノ要旨左ノ如シ

第一款 修身 人ヲ導キテ善良ナラシムルハ多識ナラシムルニ比スレハ更ニ緊要ナリトス是レ各級ニ通シテ修身科ヲ課スル所以ナリ乃チ初等中学科ニ於テハ先哲ノ嘉言善行ニ依リ以テ孝悌忠信礼義廉耻慈仁ノ事ヲ授ケ高等中学科ニ於テハ更ニ修身ノ理ヲ説キ以テ心ヲ正クシ己ヲ修メ事ヲ處シ物ニ接スルノ大道ヲ知ラシムヘシ凡ソ修身科ヲ授クルニハ唯其説ク所ヲ記誦セシムルノミ以テ足レリトセス徳性ヲ養ヒ躬行ヲ務メ操履ヲ固クセシムルコトヲ旨トシ又其理ヲ説クハ専ラ儒教ニ基カンコトヲ要ス

第二款 和漢文 和文ハ本邦固有ノ文章ニシテ其用極メテ廣ク漢文ハ普通ノ文材ニ資スル者ニシテ亦須要ノ科ナレハ各級ニ通シテ之ヲ課ス今其学習ノ為メニ分チテ読書、作文トス

読書ノ要ハ読法ヲ正クシ意義ヲ詳ニシ兼テ作文ニ資スルニ在リ故ニ初等中学科ノ和漢文ハ誦読、講義等ノ法ヲ用ヒテ文字ノ音訓、音声ノ抑揚、句読ノ断続ヲ明ニシ字義、句意、章意ヲ解セシムルヲ旨トシ殊ニ和文ハ先ツ文字、言語、文章、音韻ノ諸論ヲ教ヘ次ニ雅馴ノ文章ヲ授ケテ其例格ヲ考究セシムヘシ高等中学科ノ漢文ハ更ニ教方ヲ高尚ニシ委ク文章ノ賓主照応抑揚頓挫等ノ諸法ヲ説キ詳ニ文理ニ通曉セシメンコトヲ要ス

作文ノ要ハ思想ヲ表彰シ事実ヲ記述スルニ在リ乃チ初等中学科ノ假名交リ

構文ニ便要ナル者ハ殊ニ之ヲ記誦セシムルヲ務ムヘシ其高等中学ニ於テハ更ニ其教方ヲ高尚ニシ委ク文章ノ起承、鋪叙過結等ノ体段及賓主照應抑揚頓挫等ノ諸法ヲ説キ詳ニ文理ニ通曉セシメンコトヲ要ス

作文 作文ハ思想ヲ記述シ事態ヲ証明スルノ要法タリ故ニ之ヲ授クルハ漫ニ麗褥ニ流レヌ又粗野ニ陷ラス世務必須ノ文題ニヨリ平易ノ字句ヲ用井テ簡明ノ文章ヲ作ラシメ善ク格例ニ合ヒ実用ニ適セシメンコトヲ務ムヘシ乃初等中学ニ於テノ和文即仮名交リ文書讀文ハ近世ノ雅馴ナル文章ニヒ倣テ之ヲ作ラシメ其漢文ハ漢文読本ニ倣ヒテ簡約ノ記事文ヲ作ラシメ高等中学ニ於テノ和文ハ本邦中世ノ文態ニ倣ハシメ其漢文ハ記事文及論説文ヲ兼ね作ラシム又詩歌ハ韻調正雅ニシテ趣味優美ナルヲ貴フ故ニ先ツ三体詩古今集等ヲ記誦セシメ稍句調ニ熟シ格律ヲ悟ルノ後漸ク詠歌賦詩セシムルヲ要ス

第三款 英語 英語ハ中人以上ノ業務ヲ執リ又高等ノ学科ヲ修ムルニハ之カ知識ヲ要スル者多シトス今其學習ヲ分チテ綴字習字読方訳読讀書文法修辭及作文ノ八分科トス

綴字 綴字ハ英語ヲ学フノ初文字ノ名及音及母子音ノ區別分音ノ法等ヲ授ケテ語音ヲ正スヲ旨トス其稍習熟スルノ後ハ教師時ニ單語連語及短句ヲ唱ヘ生徒ヲシテ或ハ之ヲ反切和誦セシメ或ハ之ヲ書取ラシメ以テ漸ク綴字ノ法ヲ曉解セシムルヲ要ス

習字 習字ノ要ハ書字快捷ニシテ字形鮮明ナルニアリ乃其初先ツ姿勢執筆ノ法ヲ授ケ次ニ大字細字華字ヲ教ヘテ漸ク運筆ニ爛熟セシムルヲ要ス

読方 読方ハ稍綴字ノ法ヲ解スルノ比之ヲ授ク其要ハ音声ノ抑揚句読ノ断続ヲ明ニシテ章句ノ読方ヲ正クシ聴者ヲシテ容易ク其文意ヲ会得セシムルニアリ故ニ誦読ノ際音声ヲ調正スルハ勿論且状貌ヲ端整ナラシムルヲ要ス訳読 訳読ハ読方ヲ授クルノ際之ヲ授ク其要ハ英語ノ意義ヲ了解シテ之ヲ

文、書讀文ハ近世ノ雅馴ノ文体ニ倣ヒテ之ヲ作ラシメ漢文ハ古雅ノ文体ニ倣ヒテ單簡ノ記事文ヲ作ラシムヘシ高等中学科ノ和文ハ中世ノ雅馴ノ文体ニ倣ヒテ之ヲ作ラシメ漢文ハ記事文ヨリ論説文ニ及ボシ詩及歌ハ先ツ古人ノ詩歌ヲ記誦セシメ稍句調ニ熟シ格律ヲ曉ルノ後歌ヲ詠シ詩ヲ賦セシムヘシ凡ソ和漢文ヲ作ラシムルニハ文章簡明、句調暢和、且著実ニシテ例格ニ合スルヲ旨トシ其文題ハ務メテ実用ニ適スル者ヲ撰フヘシ但詩歌ハ韻調正雅ニシテ趣味優美ナランコトヲ要ス

第三款 英語 英語ハ其用殊ニ広キ外國語ニシテ中人以上ノ業務ヲ執リ又高等ノ学科ヲ修ムルニハ其知識ヲ要スルモノ多シトス故ニ各級ニ通シテ之ヲ課ス今其學習ノ為メニ分チテ綴字、読方、訳読、讀書、文法、修辭、習字、作文トス

綴字ハ英語ヲ教フルノ始ニ於テ之ヲ課シ文字ノ名及音、母音、子音ノ區別、分音法等ヲ授ケ以テ発音ヲ正クスルヲ旨トス稍習熟スルノ後ハ教師時ニ單語、短句ヲ唱ヘ生徒ヲシテ或ハ之ヲ分音和誦セシメ或ハ之ヲ書取ラシメ以テ綴字ノ法ヲ会得セシムヘシ

読方ハ稍綴字ノ法ヲ解スルノ時ヨリ之ヲ課ス其要ハ音声ノ抑揚、句読ノ断続ヲ明ニシ以テ読法ヲ正クシ聴者ヲシテ容易ク意義ヲ会得セシムルニ在リ且誦読ノ際音調ヲ正クシ状貌ヲ整ヘシメンコトヲ務ムヘシ

訳読ハ読方ヲ課スルノ際之ヲ授ク其要ハ英語ヲ邦語ニ訳シ意義ヲ了解セシムルニ在リ其訳スル所ノ語句ハ自ラ章ヲナシ或ハ之ヲ誦シ或ハ之ヲ筆シ得

邦語ニ翻訳スルノ法ヲ知ラシムルニ在リ乃先直訳ヲ教ヘテ漸ク意識ニ及ホシ其訳文語句ハ自ラ章ヲ為シテ直ニ之ヲ筆シ之ヲ誦シ得ルニ至ラシメメンヲ要ス

読書 読書ハ読方訳読ノ力稍進ミタルニ比ヒ其二科ヲ并セ授クル者ニシテ其要ハ訓訳ニ憑ラス音読直下以テ其意義ヲ了解スルノ力ヲ養成スルニアリ其之ヲ教フルヤ先生徒ヲシテ読法ヲ正クシテ句章ヲ誦読セシメ教師其意義ヲ講明シ或ハ生徒ヲシテ之ヲ解釈セシメ又時々書中緊要ノ句章ヲ書取ラシメ以テ聴感ヲ練リ筆記ニ慣レ綴字ノ法則ヲ明ニシ兼テ行文ノ例格ニ通セシメンヲ要ス

文法及修辭 文法及修辭ノ要ハ英語ノ法則ヲ説キ其格例ヲ明ニシテ文意ヲ理會スルノ力ヲ鞏固ナラシメ以テ語言詞章ノ實用ヲ助クルニ在リ其之ヲ教フルヤ先ツ文法ニヨリテ語詞ノ用格句点ノ施法及文章ノ組成ヲ熟知セシメ修辭ニヨリテ一層言語ノ活用ヲ授ケ以テ正格ノ文章ヲ構成セシメ尚且起想法及章句ノ整列法等ヲ授ケテ文章ノ体裁潤色等ニ注意セシメ其記述セント欲スル処ハ之ヲ尽シテ遺スナク読者ヲシテ容易ク其意旨ヲ了解セシメンヲ務メシムルヲ要ス

作文 作文ヲ授クルハ先卑近ノ設題ニ就キ單文ヲ綴ラシメ又ハ簡易ナル和文ヲ英語ニ翻訳セシメテ和英両語ノ組成及用法自ラ差異アルヲ曉解セシメ次ニ名家ノ作例ニ拠リ填語正誤ノ法等ヲ教ヘ作文ノ思想漸ク進ムニ從ヒ記事文書讀文ヲ作ラシメ上級ニ至テハ兼テ簡易ノ論說文ヲ作ラシムルヲ要ス其構文撰題ノ主要ハ第二款ニ示ス者ト全シ

第四款 算術 算術ノ要ハ數ノ性質ヲ推究シ且數ヲ実地ニ応用スルニアリテ人世百般ノ業務ニ就キ実ニ必須欠ク可ラサルモノナリ其之ヲ教フルハ先加減乗除ヨリ始メテ分数小数比例百分算開平開立級數求積ニ及ボシ子細ニ數

ルニ至ラシメンコトヲ務ムヘシ

読書ハ読方、訳読ヲ兼テ授クル者トス之ヲ授クルニハ生徒ヲシテ読方ヲ正クシテ章句ヲ誦読セシメ教師其意義ヲ講明シ或ハ生徒ヲシテ之ヲ解釈セシメ遂ニ直読以テ其意義ヲ了解スルノ力ヲ養成スルヲ旨トシ又時ニ書中緊要ノ章句ヲ書取ラシメ以テ聴感ヲ練リ筆記ニ慣レ綴字ニ熟シ兼テ行文ノ例格ヲ知ラシムヘシ

文法及修辭ヲ授クルノ要ハ英語ヲ理會スルノ力ヲ鞏固ナラシメ其實用ヲ助クルニ在リ乃チ文法ニ依リテ言詞、章句ノ法則、用格等ヲ知ラシメ修辭ニ依リテ言論、文章ノ潤色、活用等ヲ知ラシムルヲ旨トス

習字ハ字形鮮明ニシテ運筆快捷ナランコトヲ要ス故ニ先ツ姿勢執筆ノ法ヲ授ケ次ニ大字、細字ノ書法ヲ教ヘ漸ク運筆ニ習熟セシムヘシ

作文ヲ授クルニハ先ツ卑近ノ文題ニ就キテ簡易ノ文章ヲ作ラシメ或ハ填語、正誤ノ法ヲ用ヒテ作例ヲ知ラシメ作文ノ思想漸ク進ムニ及ヒ記事文、書牘文ヲ作ラシメ又時ニ簡易ノ和文ヲ訳セシメ上級ニ至リテハ兼テ簡易ノ論說文ヲ作ラシムヘシ其構文、撰題ニ注意スヘキコトハ第二款ニ示スカ如シ

第四款 算術 算術ハ百般ノ學術、日用ノ計算ニ欠クヘカラサル者ナリ之ヲ授クルニハ數理ヲ推究シ術語ヲ解釈シ法則ヲ論証シ傍ラ簡法ニ通セシムルハ勿論實際適切ノ問題ヲ与ヘテ其応用ヲ試ミ施算正確ニシテ且迅速ナラン

理ヲ講説シ術語ヲ解釈シ法則ヲ論証シ旁簡法ニ通セシメ且実地適切ノ問題ヲ与ヘテ其応用ヲ試ミ施算正確ニシテ且捷疾ナラシメンコトヲ要ス

メンコトヲ要ス

第五款 代数 代数ハ記号字母ヲ用キテ数ノ關係及性質ヲ推究スルノ学ニシテ施算ノ繁冗ヲ省キ一術以テ許多ノ問題ニ活用スルノ便アリ且数理ヲ詳明ニスルノ關鍵ニシテ数学ノ一基本タルハ勿論論理力ヲ開發シ思考力ヲ養成スル等ノ益アリテ汎ク諸般学科ノ理ヲ明解スルノ要具タルカ故ニ之ヲ教フルハ殊ニ順序ヲ正クシ理論ヲ闡明センコトヲ旨トシ先ツ記号字母ノ用法ヨリ始メ整数分数一次方程式累乘法ヲ卒ヘ二次方程式順列錯列級数ニ及ボシ務メテ数理ニ通曉セシメ兼テ実地ノ運用ニ適応セシメンコトヲ要ス

第六款 幾何 幾何ハ線面角体ノ關係性質及其測度法ヲ推究スルノ学ニシテ特ニ物ノ長短容積等ヲ精測スルノミナラス遠クハ高等数学ノ基本トナリ近クハ神心上ニ關係シテ思想ヲ緻密ニシ弁論記憶知覺判斷等ノ力ヲ養成スルノ要具ニシテ凡百ノ学芸一モ此科ニ由ラサルモノナシ故ニ之ヲ教フルハ最詳細精確ナルヲ旨トシ先平面幾何ヨリ始メ漸次立体幾何常用曲線ニ及ボシ叮寧解釈委曲説明センコトヲ要ス

第七款 三角法 三角法ハ三角形ヲ測定スルノ方法及角若クハ弧トハ線トノ關係性質等ヲ推究スルノ学ニシテ山嶽ノ高低河海ノ淺深及土地ノ遠近広狹ヲ量リ地平ノ水準ヲ定メ茫々タル星界ノ大小距離ヲ推測スル等皆源ヲ此科ニ資ラサルヲ得ス且高等ノ数理ヲ究ムルニ必要ニシテ現学諸科ノ基本トナルヘキ者ナルカ故ニ其之ヲ授クルハ先ハ線變化ヨリ始メ漸ク對数用法三角実算ニ及ボシ理論実算駢進セシメンコトヲ要ス

第五款 代数 代数ハ記号、字母ヲ用ヒテ施算ノ繁冗ヲ省キ一術ヲ以テ許多ノ問題ニ活用スルノ便アルノミナラス数理ヲ詳明ニスルノ關鍵ニシテ数字ノ一基本トナル者ナレハ殊ニ順序ヲ正クシテ理論ヲ推究セシムヘシ

第六款 幾何 幾何ハ線、面、角、体ノ性質、關係及其測度法ヲ推究スル者ニシテ物ノ長短容積等ヲ精測スルニ必要ナルノミナラス思想ヲ緻密ニシ推理判斷等ノ力ヲ養成スル者ナレハ之ヲ説明スルニハ最モ詳細精確ナルヲ旨トス又常用曲線ハ普通ノ曲線ヲ撰ヒテ之ヲ授ケ其大略ヲ知ラシムヘシ

第七款 三角法 三角法ハ八線ノ性質、關係及三角形ノ測定法ヲ推究スル者ニシテ土地ノ高低遠近等ヲ測量スル如キモ亦多クハ此科ニ資ス之ヲ授クルニハ務メテ理論実算并ヒ進マシムヘシ

第八款 地理 地理ハ啓蒙開智ノ根基タル学科ニシテ学芸及生業上必須ノモノタリ其之ヲ數フルノ序ハ総論ニ於テ地理上ノ分説世界ノ地勢等ヲ授ケ日本地誌ニ於テ全国ノ位置広袤地勢氣候人民法制上ノ区画等ノ総論及各州ノ疆域地勢物産人口郡区都邑等ノ誌ヲ授ケ萬國地誌ニ於テ海外各国ノ位置広袤地勢氣候物産政体人民都邑等ノ誌ヲ授ケ其地文ノ科ニ於テハ先天体概略ヲ授ケ其地球ノ論説ニ及ホシ海陸山川ノ位置形勢ト動植鉱物ノ產出ト電雷風雨等ノ空中現象ト乾濕寒暖等ノ風土氣候トハ互ニ相憑依シテ特立スルナキ自然ノ定則アリテ決シテ紛紊スルコトナキノ理ヲ知了セシムヘシ凡地理ヲ授クルハ吾人常ニ目撃スル地上百般ノ事蹟ヲ實地ニ研究スルヲ主トシ兼ヲ説キ且明主賢相ノ治蹟忠臣義士ノ偉行ネテ理論考説ヲ詳明ニセシコトヲ要ス

第九款 歴史 歴史ノ要ハ各邦固有ノ風俗建国ノ体制及當時紀綱ノ修廢施政ノ得失国本ノ虛実税斂ノ輕重文芸ノ隆替武備ノ張弛及治乱ノ原ク処沿革ノ因ル処正人君子ノ窮達乱臣賊子ノ成敗等ノ蹟ヲ觀テ其由ヲ考求スルニアリ其之ヲ教フルノ序ハ先日本史ヨリ始メ次ニ支那史ヲ授ケ遂ニ汎ク海外各国ノ史ニ及ホシ以テ字内ノ形勢ヲ概見セシム就中日本歴史ニ於テハ我国体ノ尊嚴世界ニ冠絶スル所以ト民生ノ休戚ハ皇室ノ隆替ト相追隨スルノ実証トヲ説キ且明主賢相ノ治蹟忠臣義士ノ偉行ヲ講明シテ務メテ勤王愛國ノ志氣ヲ振起センコトヲ要ス

第十款 生理 生理ハ医学分科ノ一ニシテ衛生学ノ基礎ヲ為スモノナリ其要ハ人体活機ノ部位造構ヲ説キ其官能ヲ論シ以テ之カ常規ヲ保統シ生活ヲ維持スル所以ノ理ヲ詳ニシ人ヲシテ身体ヲ愛護シ養生ニ注意シテ天賦ノ健康ヲ保全セシムルニアリ其之ヲ教フルハ先ツ総論ヨリ始メ次ニ各論即人体組織構造骨筋箇及消食血行水脉分泌榮養呼吸体熱発声皮膚神經五官ノ諸機ニ

第八款 地理 地理ハ學術及生業上須要ノ者ナリ乃チ総論ニ於テハ用語ノ定義、世界ノ形狀等ヲ授ケ日本地誌ニ於テハ全国ノ位置、広袤、形勢、氣候、人民、邦制上ノ区画等ヲ授ケテ各州ノ疆域、形勢、物産、人口、郡区、都邑等ニ及ホシ萬國地誌ニ於テハ海外諸國ノ疆域、形勢、氣候、物産、人民、都邑等ノ概略ヲ授ケ地文ノ科ニ於テハ地理上ノ理学ニ関スル事實ヲ授ケヘシ凡ソ地理ヲ授クルニハ殊ニ本邦ニ詳ニシテ外国ニ略シ専ラ実用上ノ問題ヲ考究シ兼子テ学理上ノ問題ニ及ハンコトヲ要ス

第九款 歴史 凡ソ臣民タル者自國ノ沿革ヲ知ルコト最モ緊要ナレハ先ツ本邦ノ歴史ヲ課シ主トシテ建国ノ体制、風俗ノ變遷、政治ノ沿革、明主賢相ノ治績、忠臣義士ノ偉行、学芸ノ隆替、武備ノ張弛等ヲ講明シ民生ノ休戚ハ常ニ皇室ノ隆替ト相從フノ実跡ヲ説キ務メテ尊王愛國ノ志氣ヲ振起センコトヲ要ス支那モ亦本邦ト最モ親密ノ關係ヲ有スル国ナレハ次ニ其歴史ヲ課シ終ニ他ノ海外諸國ノ歴史ニ及ホシ以テ其形勢ノ概略ヲ知ラシムヘシ

第十款 生理 生理ヲ授クルノ要ハ身体ノ健康ヲ保全シ且精神ヲ快活ナラシムルニ在リ故ニ人体ノ構造、組織及機關ノ作用ヲ説キ兼子テ養生法ニ及ホシ身体ノ發育保統スル所以ノ理、飲食運動等ノ節セサルヘカラサルノ理ヲ知ラシメ以テ天賦ノ身心ヲ全クセシメンコトヲ務ムヘシ

及ホシ毎論部位官能摂生ノ部ヲ分チテ之ヲ教ヘ専ラ摸型人体骨骼図式等ニテ論意ヲ徴証シ組織ノ講説ニ至テハ顯微鏡ヲ用キテ之ヲ示明センコトヲ要ス

第十一款 動物学及植物学 動物植物ノ二学ハ薬剤農業等諸専門学科ノ基礎

トナリ又生理学ニ入ルノ端緒ニ入ルノ端緒タルモノナリ其要ハ動物植物ノ造構性質分類等ヲ識別探究シテ人世ニ裨益損害アルコトヲ知了シ殊ニ本邦所産ノ動物植物ニ注意シテ常ニ実地ニ觀察セシムルニアリ其之ヲ教フルヤ動物学ハ先総論分科ヨリ始メテ各論ニ及ホシ微細動物ヨリ有脊動物ニ至ル迄一其類属特性慣習効用等ヲ授ケ植物学ハ先総論ヨリ始メテ器官各論ニ及ホシ根幹葉花果実種子等ノ類別組織造構及營養長育増殖生殖ノ理ヲ弁明シテ後種属分科及地理植物学ヲ授ク凡テ此二学ヲ授クルハ専ラ実物模造標本図式等ニ就キテ論意ヲ証明シ殊ニ微細動物及植物内部ノ組織ハ顯微鏡ヲ用キテ詳ニ之ヲ講説センコトヲ要ス

第十二款 金石 金石学ノ要ハ金石ノ名称ヲ識リ其性質ヲ詳ニシ其効用ヲ明

ニシ以テ日用ニ供スルノ方ヲ索ルニアリ故ニ主トシテ金石ノ晶形物理上及化学上ノ性質分類法化学上金石ノ符号及弁識別法等ヲ授ケ殊ニ本邦所産ノ金石ニ就テハ一層精密ニ之ヲ説明シテ農業工業上ノ実用ニ注意セシムヘシ且本科ノ終ニ於テ地質学ノ大意ヲ授ケ地層ノ構造性質等ヲ知ラシメ漸ク採鉱術ノ端緒ヲ啓カシムヘシ凡テ金石地質ヲ教フルハ専ラ実物模型図式等ニ就キテ着実解釈シ以テ觀察ニ便センコトヲ要ス

第十三款 物理 物理ハ覆載間万物ノ有スル性及力ト其作用トヲ窮格スルノ

学ニシテ其要ハ智識ヲ啓発シ思想ヲ練磨シ百ノ工芸技術ヲシテ精緻巧妙ヲ極メ以テ世用ヲ利セシムルニアリ其之ヲ教フルヤ初等中学ニ於テハ運動論

第十一款 動物、植物、金石 動物、植物、金石ヲ授クルノ要ハ其名称ヲ識

リ其性質ヲ詳ニシ其効用ヲ弁ヘシムルニ在リ其教授ノ法ハ学理上ノ説ヲ講スルニ止マラス広ク農工商ノ実用ニ供スルノ方ヲ索メ且主トシテ本邦産スル所ノ動物、植物、金石ニ就キテ之ヲ講明スヘシ又金石ノ科ハ其終ニ於テ地質ノ大意ヲ授ケ地層ノ構造、種類等ヲ知ラシメ採鉱術ノ端緒ヲ開カノコトヲ要ス

第十二款 物理 物理ハ宇宙萬有ノ形態上ノ現象ヲ講明スル者ニシテ諸科ノ

學術ト親密ノ關係ヲ有シ殊ニ百般ノ工芸技術ノ進歩ヲ助ケ其用極メテ大ナレハ先ツ初等中学科ニ於テ其大略ヲ授ケ高等中学科ニ至リ一層精密ニ諸現

固体力液体力気体力音響及熱光電気等ノ大意ヲ授ケ卑近ノ事物ニ就キ又ハ簡易ノ器械ヲ用キテ其要領ヲ説明シ高等中学ニ於テハ更ニ総論重学熱学聴学視学電気磁気ヲ教ヘ次ニ氣象学ノ大意ヲ授ケテ諸現象ノ理論及法則ヲ説キ生徒ヲシテ各自ニ器械ノ運用用法ヲ実験セシメ又時々問題ヲ与ヘテ動力ノ働諸体ノ膨脹収縮引力退力等ヲ測算セシメ以テ萬有ノ原理ヲ曉知セシメントヲ要ス

第十四款 化学 化学ノ要ハ物質ノ性及変化及其組織ノ理ヲ講究スルニアリテ農業工業衛生等百般ノ事功此学ニ縁ラサルモノ鮮シ其之ヲ授クルヤ初等中学ニ於テハ通常ノ元素及其化合物ノ性質等ヲ授ケ并日常触目スル諸物ニ就キ簡易ノ実験ヲ為シテ無機化学ノ概略ヲ了得セシメ高等中学ニ於テハ更ニ総論諸元素及其化合物ノ性質ヲ詳説シテ稀生元素ニ及ホシ兼ネテ有機化学ノ大意ヲ教ヘ生徒ヲシテ各自ニ種々ノ試験ヲ施サシメ傍検質分析定量分析ノ要領ヲ示シテ化学ノ全体ニ通曉セシムルヲ要ス

第十五款 経済 経済ハ利用厚生ノ道即一家ノ生計一國ノ致富分業ノ限界生産物及人口ノ増減貨幣券狀貿易利息地代等ノ縁由并用方農産物ノ価及賃銀ノ多寡ヲ定ムル理由等ヲ講究スルノ学ニシテ其範圍頗ル広汎理論亦深奥僅々短時月ヲ以テ完了シ得ヘキ者ニアラス故ニ総論生財配財貿易貨幣銀行租税等ノ要領ヲ概括シテ之ヲ授クヘシ謾テ其論旨ハ謾ニ一家ノ説ク処ニ偏倚セス博ク諸説ニ涉獵シテ参酌折衷シ以テ中正ニ帰セシメントヲ要ス

第十六款 記簿 記簿ハ資財ノ出納ヲ算定スルノ法ニシテ生計上必須ノ学科

象ノ法則、關係等ヲ授ケ次ニ氣象ノ大意ヲ授ケテ氣中現象ノ一斑ヲ知ラシムヘシ

第十三款 化学 化学ハ物質ノ成分、變化ヲ講究スル者ニシテ他ノ理学ノ濫奥ヲ闡クコト多クハ之ニ依リ又百般ノ製造技術ヲ資ケ其用極メテ大ナレハ先ツ初等中学科ニ於テ通常ノ非金屬及金屬元素其化合物ノ大略ヲ授ケ高等中学科ニ至リ一層精密ニ無機化学ノ全論ヲ授ケテ有機化学ノ大意ニ及ホシ以テ化学ノ全体ヲ知ラシムヘシ

以上掲クル所ノ化学、物理、動物、植物、金石、生理、地理ハ器械上ノ試験又ハ実物、標品、模型、絵図等ノ觀察ニ依リテ明晰著実ノ教授ヲ施シ其真理ヲ了解セシムルコト最モ緊要ナリトス

第十四款 経済 経済ハ利用厚生ノ学ニシテ其理深奥ナレハ其要領ヲ摘ミテ之ヲ授クヘシ凡ソ經濟ヲ授クルニハ実用ヲ主トシテ理論ニ馳セス且一家ノ説ク所ノミニ偏倚セサランコトヲ要ス

第十五款 記簿 記簿ハ資財ノ出納ヲ登記算定スルノ法ニシテ亦須要ノ科ト

タリ其之ヲ授クルハ先諸帳簿ノ用法ヲ諳記セシメ次ニ実地ノ記入ヲ為サシメ次ニ試算表ヲ製スルノ法正算表ヲ製シテ決算ヲ為スノ法及手形証書等ノ式ヲ授ケ又時々実地ノ適例ヲ与ヘテ之ヲ練習セシムルハ勿論并セテ速寫算ニ慣レ且事ヲ嚴正ニ区処スルノ良習ヲ得セシムルヲ要ス

第十七款 本邦法令 現行法令ハ臣民タル者ノ識知セサル可ラサル者トス其之ヲ授クルハ先官制戸籍財産契約營業雜稅教育衛生兵役貨幣公債圖書新聞集會警察訴訟等ニ係ル諸法令ヲ教ヘ次ニ刑法治罪法ノ要略及外國條約ノ事等ヲ教ヘ其學習ハ理論ヲ講究スルヲ須井ス專成文ノ意義ヲ了得セシメンコトヲ要ス

第十八款 習字 習字ノ要ハ筆力遒勁字形正雅ナルヲ貴フ其之ヲ授クルニハ先執筆運筆ノ法即双鈞懸腕讓左側右虛掌実指意前筆後等ノ概略ヲ説キテ楷書ノ間架結構ヲ教ヘ次ニ行書草書ニ及ボシ其漸ク運筆ニ爛熟スルニ至テハ時々細字ヲ速寫セシメテ日常実地ノ活用ヲ試ミンコトヲ要ス

第十九款 図画 図画ハ物象ヲ模写シテ言語文字ノ尽ス能ハサル處ヲ章明シ人ヲシテ思考ヲ緻密ニシ巧智ヲ開發セシムルノ益アリテ其用極メテ廣ク就中工芸上欠ク可ラサルノ学科タリ之ヲ教フルノ序ハ自在画法ヲ先ニシ用器画法ヲ後ニスヘシ其自在画法ハ先執筆運筆ノ法ヲ授ケテ之ヲ練習セシメ次ニ範本又ハ模型ヲ示シ其法則ヲ授ケテ之ヲ臨寫セシム其用器画法ハ先其法則ヲ授ケ次ニ問題ヲ与ヘテ之ヲ考究セシメ漸ク進ミテ実物ヲ臨寫セシムヘシ凡図画ハ配法其宜ヲ得テ光線陰影ノ法等善ク其度ニ適センコトヲ要ス

(唱歌なし―筆者注)

ス乃チ先ツ諸帳簿ノ用法ヲ授ケ次ニ実地記入ノ法、試算表ヲ製スルノ式、正算表ヲ製シテ決算ヲナスノ式及手形証書ノ式等ヲ授ケテ之ヲ練習セシムヘシ

第十六款 本邦法令 凡ソ臣民タル者ハ本邦現行ノ法令ヲ知ルコト緊要ナリトス故ニ此科ニ於テハ日常知ラサルヘカラサル者即チ戸籍、財産、營業、教育、衛生、兵役、賞罰等ニ係ル諸法令ノ要略ヲ授ケヘシ但之ヲ授クルニハ成文ノ意義ヲ知ラシムルヲ旨トシ其理ヲ講スルヲ要セス

第十七款 習字 習字ハ筆力遒勁ニシテ字形正雅ナルヲ要ス故ニ先ツ姿勢執筆ノ法ヲ授ケ漸ク間架結構ヲ練習セシメ稍熟スルノ後ハ時ニ細字ヲ速寫セシメ以テ日常ノ応用ニ慣レシムヘシ

第十八款 図画 図画ハ言語、文字ノ及ハサル所ヲ写出シ其用甚タ廣ク殊ニ工芸上欠クヘカラサルノ科ナレハ各級ニ通シテ之ヲ課ス之ヲ授クルニハ自在画ハ先ツ執筆運筆ノ法ヲ練習セシメ次ニ範本又ハ模型ヲ示シ其法則ヲ授ケテ之ヲ臨寫セシメ漸ク進ミテ実物ヲ臨寫セシムヘシ用器画ハ先ツ其法則ヲ授ケ次ニ問題ヲ与ヘテ之ヲ考究セシメ漸ク進ミテ実用ニ及ホスヘシ凡ソ図画ハ排列ノ法其宜ヲ得テ光線陰影ノ法等其度ニ適センコトヲ要ス

第十九款 唱歌 唱歌ノ要ハ専ラ心情ヲ感發シ以テ修身ニ資スルニ在リ故ニ

第二十款 体操 体操ノ要ハ体格ヲ端正ニシ肺量ヲ寛濶ニシ関節ヲ利シ筋力ヲ強クシ以テ健康ヲ保全セシムル在リ其之ヲ教フルハ先美容術徒手運動ヨリ始メ次ニ輕捷体操及器械体操等ヲ授ケ兼ネテ歩兵操練ノ初歩ヲ演習セシム而テ毎学期活力統計表ヲ製シテ其成果ヲ証明センコトヲ要ス

京都大学教養部図書館蔵

『明治十五年 文部省伺届原稿 大阪中学校』所収

別表「府県別学科別『教授要旨』項目及び課程別修業年限」にもしめたように、伺案では動物学および植物学を一括し、金石を独立させているのにたいして、指令は動物・植物・金石を一括記している。これは伺案が生命体としての動植物と非生命体としての金石とを区分したのにたいして、指令は従来からの「博物」観によったものである。また伺案は大阪中学校ではいまだ実施の段階にない唱歌の教授要旨を欠いたのにたいして、指令はこれを記載している。これは文部省が大阪中学校の教授要旨をもって全国中学校教授要旨の範型とする意図をもっていたことによるものと考えられる。つぎに化学・物理・植物・金石・生理・地理の教授法を伺案は各学科目中に分記しているのにたいして、指令は観察・実験等を重視すべきことを一括して化学のつぎ

各級ニ通シテ之ヲ課ス乃チ先ツ単音唱歌ヲ授ケテ複音唱歌ニ及ホシ次ニ主トシテ諸重音唱歌ヲ授クヘン凡ソ唱歌ハ音律ヲ正クシ声調ヲ和スルヲ音トスル者ナレハ楽器ハ風琴、箏、胡弓等ノ如キ音調純正ノ者ヲ用ヒ歌詞ハ趣味高雅優美ニシテ道德上ニ裨益アル者ヲ撰ハンコトヲ要ス

第二十款 体操 体操ノ要ハ身体ノ發育ヲ平等ニシ健康ヲ保全セシムル在リ故ニ先ツ美容術ヲ授ケ次ニ徒手体操、輕体操、重体操ヲナサシメ兼子テ歩兵操練ノ初歩ヲ演習セシムヘシ
但毎学期活力統計表ヲ製シテ其成果ヲ証明センコトヲ要ス

京都大学教養部図書館蔵

『明治十五年 文部省伺指令本紙 大坂中学校』所収

に記している点である。また伺案が学科課程表にしるされている教授項目を再記しているのにたいして指令はこれをのぞいて簡潔にしている。またこれとともに繁褥な修飾語句や説明文を削除して簡略化した。内容上からみると伺案が修身の冒頭で小学校教員心得の第一項をもって『中庸』の一句におきかえ、徳目中「慈祥」を「慈仁」と改めた。和漢文は伺案が日本文法・読書・作文の三科に分けたのにたいして、指令は読書・作文の二科とし、文法は前者にふくめた。地理は伺案の総論で「地理上ノ分説」とあったものを指令は「用語ノ定義」とあらためているが、とりわけ万国地誌では伺案で記した海外各国の「政体」を指令ではまったく削除している。教科書検定と軌を一にするもので共和政体・民主政体等欧米の政体論への危惧によるものである。⁽³⁾

これは歴史の場合と対応するものであり、伺案が教授要項として「紀綱ノ修廢（傍点筆者―以下同じ）・「施政ノ得失」・「国本ノ虚実」・「税斂ノ輕重」・「武備ノ張弛及治乱」等否定的側面についても表記しているのにたいして、指令はこれをのぞき、「明主賢相ノ治蹟」・「忠臣義士ノ偉行」等肯定的側面からの教授を求めている。これは歴史科が「民生ノ休戚ハ常ニ皇室ノ隆替ト相追隨スルノ実証トヲ説キ……務メテ勤王愛國ノ志氣ヲ振起」することを目的とするものである。伺案が「日本歴史ニ於テハ我国体ノ尊嚴世界ニ冠絶スル所以」を実証・講明することを記した部分を指令は削除しているが、繁褥な文をさけるとともに、実質的にその内容が項目に規定されていることによるものであらう。またさらに本邦法令では伺案の雜稅・貨幣公債・図書新聞・集会・警察・訴訟および刑法治罪の要略・外国条約の項目が削られている。民権運動抑圧の政府の政策にたいして、ことさらに氣鋭な若者たちに目を向けさせないための配慮ではないかと考えられる。

(3) 内田正雄の『興地誌略』（明治三年）・師範学校編『地理初歩』（明治八年）、南摩綱紀編『小学地誌』（文部省印行 明治十二年）等には各国の政体に関する記述があり、当時万国地誌の内容に「政体」について記される例は多かった。

大阪中学校教授要旨の特質

大阪中学校伺案は、右にのべたように文部省によっていくつかの点

で修正が加えられたが、両者のあいだには基本的・本質的な差異はみられない。まず第一に儒教主義による国家主義的教育理念をかかげている点である。地理の伺案が「政体」を記し、日本史でわが国の治世の得失をかかげたにしても共和政治や失政をあげつらうものではなく、『神皇正統記』や『皇朝史略』等の教科書をもちいて皇室の尊嚴性や正統性・善政を強調し、万国史についても官製の教科書『近世西史綱紀』や『続西史綱紀』などによって教授するものとしている。また初等中学校の修身教科書においても『忠経』をもちいることとしている。そして伺案がこれらを総括するようなかたちで「就中日本歴史ニ於テハ我国体ノ尊嚴世界ニ冠スル所以ト民生ノ休戚ハ皇室ノ隆替ト相追隨スルノ実証……トヲ講明シテ務メテ勤王愛國ノ志氣ヲ振起センコトヲ要ス」と歴史科教授要旨に記していることをもって明白である。修身科では「理義ハ専ラ儒教ニ基キテ之ヲ説キ敢テ他教ノ理論ヲ雜ユルコトナキヲ要ス」といっているが、大阪中学校教授要旨にしめされた教育理念は、儒教主義、とりわけ日本的に解釈された朱子学の大義名分論と尊王愛國による国家主義的教育を根幹としたものであって、伺案と指令は本質的には同じものということができる。

大阪中学校教授要旨の第二の特質は、唱歌をも「修身ニ資スル」ことをもって「道徳上ニ裨益アル」ものとすることにみられるように、日用性・実用性を強調しているところにある。和漢文の作文では「文題ハ務メテ実用ニ適スル者ヲ撰」ばしめ、英語教育は「其用殊ニ広キ外国語ニシテ中人以上ノ業務ヲ執」るうえに必要なものとの認識にた

ち、理学や自然科学に関する教科については当然のことながら、算術は「日用ノ計算ニ欠クヘカラサル」もので「實際適切ノ問題ヲ与ヘテ其応用ヲ試ミ」させる。地理は日本人の生活および生産基盤である日本地誌に重点をおきながら「専ラ実用上ノ問題ヲ考究」させるものとしている。動物・植物・金石は「広ク農工商ノ実用ニ供スルノ方ヲ索メ」しめ、物理は「百般ノ工芸技術ノ進歩ヲ助ケ」、化学は「百般ノ製造技術ヲ資ケ」、ともに「其用極メテ大ナ」なることをあげている。経済や記簿についてはあらためてしるすまでもない。本邦法令・習字・図画・体操についても同様に日常の実用性を強調している。前述したように唱歌についても道德教育上の手段・実用性がとかれていたことは注目すべきことである。そこには近代化をいそぐ政府の中等教育にたいする教育要求が端的に示めされているといえよう。

第三の特質として教科のもつ形式陶冶性の重視をあげることができ。和漢文では文字・言語・文章・音韻・雅馴の文章を系統的に配列した教材をとおして文章の「例格」を考えへさせたり（和漢文）、賓主・照応・抑揚・頓挫の諸法をとおして「文理ニ通曉セシメ」（漢文）、英語において文法・修辭を教授する意図は、英語を「理會スルノ力」を鞏固にして実用・応用の力を習得させるにあるとしている。数学系統の諸教科はかかる性格をもつものであるが、代数では「一術ヲ以テ許多ノ問題ニ活用スル便アル」といい、幾何について「思想ヲ緻密ニシ推理判断等ノ力ヲ養成スル者」としての教科の特質をあげている。このような形式陶冶観は教材の系統性の重視、当時の学問の在り方や

上からの教育体制の在り方とふかくかわるものである。

大阪中学校教授要旨にみられる教授方法

つぎに教授要旨に示めされた教授方法について考察する。教授要旨は各教科目の教授の目的・要旨のほかその教授法についても記載するものとしている。まず第一に教材の配列や教授の過程に系統性を重視していることを指摘することができる。大きくは初等中学科と高等中学科の二段階にわけて、前者ではより実践的・具体的・平易な内容・みじかな素材を課し、後者ではより原理的・抽象的・より高度な内容を課している。例えば修身科において前者が先哲の嘉言善行によって孝悌以下具体的な徳目を授けるのにたいして、後者は「修身上ノ理」をとぎ、処事接物の「大道」をしらせるものとしている。和漢文読書は前者ではみじかな和文から外国語である漢文への段階を踏み、具体的な文章の事例から例格を考えさせるが、後者の漢文は「更ニ教方ヲ高尚ニシ」て文章の諸原則や文理に解曉させるものとした。和漢文は文字の音訓・音声の抑揚・句読の断続へと平易なものからより難しいものへ、解義も単語・句・章へ、またとりわけ和文の場合は文字・言語・文章・音韻の諸論・雅馴の文章へと短い教材から長い教材へ、容易な教材からよりむずかしい教材へと系統的に順序をおって教授するものとしている。英語についても同様のことがいえる。算術では数理の推究・術語の解釈・法則の論証・応用という段階をとっている。地理・歴史が日本から隣国支那、さらにその他の海外諸国へと外延を漸

時拡大しているなどその例である。

第二に、文章や各学科の構造上の原理に基づいた教授法をとる結果として「教授」、すなわち教師中心の講義・記憶などによる知識伝達の注入的教授法がとられている。教授要旨の随所に「授ケル」・「記誦セシムル」・「説ク」・「教フル」・「知ラシムル」等々の語が頻繁にもちいられていることによってしめされる。

また第三に、模倣による学習方法をあげることができる。例えば初等中学校の和漢文の作文では仮名交り文・書牘文は「近世ノ雅馴ノ文体ニ倣ヒテ」といい、「例格ニ合スルヲ旨トシ」など基本的・模範的な文章を範型とし、その模倣をとおして体得させており、したがって自ら「作ラシメ」たり英語の章句を「書取ラシメ」たり、記誦するという作業・動作を重視している。そこには「格に入つて格を出す」あるいは「盗む」というわが国の伝統的な学習法をみることができる。

第四に、自然科学系の諸学科は観察・実験を重視している。何案では各学科ごとに記していた化学・物理・動物・植物・金石・生理・地理の教授法を一括して「器械上ノ試験又ハ実物・標品・模型・絵図等ノ観察ニ依リテ明晰著実ノ教授ヲ施シ其真理ヲ了解セシムルコト最モ緊要ナリトス」と記述しているが、そこには初等教育に導入された感覚主導の教授法の影響もさることながら、先述した実用主義教育の重視とあいまってわが国の富国強兵のための近代産業の伸展にたいする中等教育への期待をしめたものといえよう。

おわりに

大阪中学校の教授要旨は全国中学校教育の範型をしめし、わが国中学校制度成立期の各教科教授の目的・要領・教授法を定律化するうえに重要な役割を担った。しかしこの教授要旨は大阪中学校の伺案を土台としながら文部省が修正、成文化したものである。修正・成文化の経緯は、当時の文部省の中学校教育政策の本旨を解釈するうえで有益である。

従来、この期の中学校教育政策史の考察は、主としていわゆる外的事項にむけられてきた。本稿は内的事項の研究への手掛りをえようとするものである。そこには、理念的には尊王愛国の志氣にとんだ人材の育成を期し、一方、理論と技術をそなえた殖産興業に資する人材の養成を図るものであった。後者においてはさらに上級学校に進学し、より高度な理論と技術をもった指導的技術者を育成するための予備教育・準備教育をふくむとともに、他方、強固な国家意識にたち、実務に関する一般的な理論と技術を兼備した地域的な指導者の育成を期するものであった。この両者は併存的に存立するものではなく、一体的にとらえられるべきものであって、ようやく欧米近代諸国に伍していくための広範な中堅的人材と中等社会の形成をはかろうとするものであったといえることができる。

（本学教授・教育学）

一九八六・九・一三